

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成21年11月19日(2009.11.19)

【公開番号】特開2008-136751(P2008-136751A)
 【公開日】平成20年6月19日(2008.6.19)
 【年通号数】公開・登録公報2008-024
 【出願番号】特願2006-327687(P2006-327687)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 6/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/00 3 0 3 K

A 6 1 B 6/00 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月1日(2009.10.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

X 線発生部により X 線撮影を制御する X 線制御手段と、前記 X 線撮影によって撮影データが蓄積するイメージングプレートと、前記イメージングプレートに格納された画像データを読み出す画像読出手段と、前記画像読出手段による画像データの読出が終了した際に、前記イメージングプレートに格納されている撮影データを消去する消去手段と、を備える移動型 X 線装置であって、

前記 X 線撮影の終了によって前記 X 線制御手段をインターロックするインターロック手段と、

前記画像読出手段による該読出終了によって、前記消去手段に前記イメージングプレートに蓄積された画像データを消去させる制御手段とを備えたことを特徴とする移動型 X 線装置。

【請求項 2】

前記制御手段は、前記消去手段によって前記イメージングプレートが消去された後に前記インターロック手段によるインターロックを解除するように制御することを特徴とする請求項 1 に記載の移動型 X 線装置。

【請求項 3】

前記インターロック手段は、前記イメージングプレートから読み出される画像データの保存が終了するまで次の X 線撮影ができないようにすることを特徴とする請求項 1 に記載の移動型 X 線装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

(3) 本発明による移動型 X 線装置は、たとえば、(1) の構成を前提とし、前記インターロック手段は、前記イメージングプレートから読み出される画像データの保存が終了するまで次の X 線撮影ができないようにすることを特徴とする。

なお、本発明は以上の構成に限定されず、本発明の技術思想を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３１】

該消去手段１３Ａは、たとえば図示しない消去光照射部を備えて構成され、前記イメージングプレート１０の前記輝尽性蛍光体における潜像（撮影データ）の消去は、該輝尽性蛍光体に残留するＸ線エネルギーを消去することによって行っている。

なお、該消去手段１３Ａの該イメージングプレート１０の前記輝尽性蛍光体における潜像（撮影データ）の消去は、情報格納手段１４からの後述する信号の受信によって行うようになっている。イメージングプレート１０からの画像データを情報格納手段１４に保存する前に該イメージングプレート１０の撮影データを消去してしまうミスの発生を回避させるためである。